

令和元年度 自己評価書

学校名	和歌山市立三田小学校
校長氏名	桑木 義典
作成日	令和2年3月10日

1 教育目標

主体的・創造的な子どもを育てる。

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> 県学習到達度調査で基本問題の正答数が県平均を上回る。 毎日の勉強が分かる。(児童アンケート 90%) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が楽しいと感じる。(児童アンケート 95%) 「みんなの道徳」等の活用100% いじめの解消率 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 朝ごはんを食べた。(児童 100%) 積極的に運動を行うよう計画し、実践した。(教師 90%) 避難訓練において、一次避難が避難開始より4分以内に完了する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子がよく伝わった。(保護者アンケート 80%) ゲストティーチャーを招く等、地域の人材や文化等を学習に取り入れることができた。(教師 90%)
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎基礎・基本の確かな定着 ◎子供主体の授業の推進 ○家庭学習の定着 ○読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎道徳・人権教育の充実 ◎いじめの未然防止、早期発見 ○社会性・協調性の育成 ○積極的に挨拶ができる子に 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ○危機回避能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭・地域との連携充実 ◎保幼小の接続、中学校区における学校間連携の推進 ◎地域の資源活用の推進
取組の状況	<p>○朝学では「読み聞かせ、読書、視写、漢字」など各学年・学級の実態にあわせて行った。午後からの基礎学では算数の計算等の復習を行い、基礎、基本の定着をはかることと作文指導に取り組んだ。また、4年生以上では応用をつける問題についても取り入れた。</p> <p>○子供たちに表現力をつけるために、校内研究授業では、「書くこと・伝えること」を取り入れ、自分の考えが書け、それが発表等の表現につながるようにと取り組んできた。また、「書くこと」に慣れるよう、数多くの場面で「書く」活動を取り入れてきた。</p>	<p>○10月の学習参観において道徳の授業を中心とした人権学習を全学年で行った。</p> <p>○地域の方々やゲストティーチャーなど、多くの人と出会えるような取組を学習に取り入れていくように心がけた。登下校時には、見守り隊の方々にも積極的に子供たちに話しかけていただいた。</p> <p>○校庭には委員会活動を中心に花を絶やさないようにした。また、各学年で野菜作りも行い調理実習を行うなど、学習園を計画的に使用した。</p>	<p>○SANTA50・70(生活調べ)を年間2回、それぞれ続けて1週間行い、子供たちが自分の生活を見つめ直す機会を設けた。また、その結果を保護者の方にも見ていただきコメントをいただくようにした。</p> <p>○年間3回の避難訓練(地震と火事、津波、不審者)を行った。また、警報発令時に備えた一斉下校訓練も3回行った。</p> <p>○1年生には歩行、3年生には自転車の乗り方の交通安全教室を地域の方の協力も得て行った。</p>	<p>○5年生が地域の方の田んぼをお借りして稲作を行った。初蒔きから田植え、稲刈り、脱穀、餅つき、しめ縄作りまで、地域の方々の協力を得て実施することができた。</p> <p>○PTA主催の子どもまつりと餅つき大会は、保護者、地域の方々の参加で大盛況であった。</p> <p>○日進中学校の授業を参観させていただく機会を設けていただいた。</p> <p>○学校便りを毎月発行し、連絡所にも置いたり、地区回覧板に掲載していただいたりして、地域の方々にもお知らせした。</p>
取組の結果と課題	<p>○朝学の「読書、視写、漢字」は子供たちに文字や文章に慣れさせることができ、静かに学習に入ることができた。基礎学タイムは、発展問題をしたり、思いを綴ったりと、子供たちの実情に応じて、取り組むことができた。</p> <p>○研究授業では、子供たち一人一人が自分の考えをみんなに伝えることができるように、話し合い活動を通して考えが深められるようにと研究を重ねていきたいと思っている。</p>	<p>○人権参観は、より多くの保護者に懇談会へ参加してもらえようという工夫をしたところ、昨年を上回る参加があったが、働きかけを強める必要がある。</p> <p>○1年生と地域の高齢の方々との交流は昔遊びを教えてもらったり、一緒に給食を食べたりして、やさしさに触れることができた。そして、相手の思いを知ったりする貴重な交流となった。また、4年生の「わうクラス」は、犬を通して命の大切さを学習することができた。</p> <p>○ずいぶん多くの子供が挨拶を返せるようになり、積極的に自分から挨拶できるようになってきた。</p>	<p>○スポーツテストの結果から、子供たちの苦手とする運動能力を高めるために、体育の授業のなかで意識して取り組んできた。しかし、すぐに改善するといふものではないため、継続して取り組んでいかなければならない。</p> <p>○SANTA50・70については、ほとんどの保護者がコメントを書いて返してくれている。しかし、返ってこない家庭もあり、その家庭の子供の生活習慣が大変気になる。(本人には担任が絶えず確認している。)</p>	<p>○子どもまつりには出店を、餅つき大会ではもちつき指導をPTA行事には地域の方々の協力が不可欠であった。今後も地域の方々に学校にかかわっていただけるよう協力を願ってきたい。</p> <p>○小中の連携については、日進ブロックでの授業交流会を設けてくださり、授業を参観させていただいた。9年間を通した義務教育を見通して、今後は中学校から来ていただく機会を設け、活発に交流していくことが大切であると思われる。</p>
改善方法	<p>○基礎的、基本的な知識技能の習得は重要なため、今後とも工夫改善を加えて継続して取り組んでいく。また、子供一人一人の実情を把握し、内容や問題量、時間配分などについても工夫していくことが大切であると考える。</p> <p>○子供たちの実情から、子供一人一人に言語力・表現力が身につくよう、さらに教職員が丸となって現職教育での取り組む方向や内容を探るとともに、外部講師を招き、研修を深めていきたい。</p>	<p>○人権学習に関する重要性和その取組内容について、保護者に伝えていくことが大切である。</p> <p>○人との出会いが心の成長に与える影響が大きく、学習効果を高めることより、授業のなかに、子供たちの心に響く人との出会い(ゲストティーチャー招聘)を今後も全学年で行ってきたい。</p> <p>○挨拶については、全教職員で範を示していくとともに、挨拶の重要性について子供たちに絶えず話し、あいさつの輪をどんどん広げていきたいと考えている。</p>	<p>○津波に備えた避難訓練を行っているが、想定をはるかにしのぐ場合に備えて、決めている二次避難所への避難の訓練も実施したいと考えている。</p> <p>○体力をつけるもとなる基本的生活習慣の定着について、保護者へのさらなる啓発に取り組んでいく。</p> <p>○子供の体力をさらに向上していくために、体育の授業を系統立てて計画し、さらなる充実に取り組んでいく。</p>	<p>○要望があれば協力していただける地域の方々であるため、～名人(野菜作り名人や裁縫名人等)として学校に来ていただき、ゲストティーチャーとして授業のなかでさらに関わっていただける機会を設けていきたい。</p> <p>○学校開放週間に来校していただけた保護者が少なかったため、より多くの方々に来ていただくような取組やお知らせを行ってきたい。</p> <p>○保護者や地域の方々に、学校の様子や子供たちの活動の様子など、機会をえらってさらなる情報発信を行ってきたい。</p>

3 その他の課題

○授業参観には多くの保護者の皆様に来ていただけるのですが、その後の学級懇談会は、参加していただける方が少ないという現状です。一人でも多くの保護者の方に参加していただけるよう、「魅力ある懇談会」になるような工夫について、探っていききたいと思います。